

平成28年度 鳥取大学地域学部入学試験問題

(後期日程)

小 論 文

(地域学部 地域環境学科)

(注 意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2ページ、解答用紙は2枚、下書用紙は2枚である。
指示があってから確認すること。
3. 解答は解答用紙(横書き)に記入すること。
4. 下書、メモ等を試みる場合は、下書用紙又は問題冊子の余白を利用してよい。
5. 解答用紙を持ち帰ってはならないが、問題冊子及び下書用紙は必ず持ち帰ること。

問1

以下は地域の活性化についてのAさんとBさんの会話です。彼らの意見を踏まえて、「地域の活性化」について、あなたの考えを300字以上400字以内で述べてください。

A：最近、地方創生や地域の活性化が新聞などで話題にあがっています。2015年に国が「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をうちだしたことで、各自治体も地方創生に向けた取り組みを始めていますね。

B：それぞれの地域が活性化するにはいろいろな方策があると思いますが、地域の活性化は今に始まったことではないと思います。地方には旅行したくなるような魅力的な町もたくさんありますよね。これまでもそれぞれの地域に独自の取り組みがあったと思います。

A：その一方で、高度成長期には全国に似たような遊園地や文化施設、商業施設が作られ、イベントも開催されて、どこにいても東京と同じような娯楽や文化を享受できるようになりました。地方に雇用を作り出し、若者を地方につなぎとめるためには効果があったと思います。ただ、その後の状況を見れば明らかのように、これは地方に「ミニ東京」を作り出しただけで、本物には勝てなかったように思います。

B：今回の政策の一つに「地域の特性に即して、地域課題を解決する」とあります。確かに今は町の風景が似たようになり、日本全国が均一化してしまったような感じがします。安価な労働力を求めて工場が海外に移転し、少子化が地方の人口減少に拍車をかける中で、地方が消滅しないように維持することは大切なことだと思います。地域の特性や独自性にもとづいた地域の活性化をしなくてはいけないと思います。

A：しかし、わざわざ地域活性化政策を打ち出さなければならないのは、地方には住みづらいと考えている人が多いからだだと思います。東京への一極集中といえば悪く聞こえますが、住みやすいところに集まるのは人間の自由な動きだと思います。実際にフランスや韓国は首都に多くのものが集中しています。

問2

以下は日本の森林の現状についてのCさんとDさんの会話です。彼らの意見を踏まえて、「環境の保全」について、あなたの考えを300字以上400字以内で述べてください。

C: 日本の森林は危機に瀕していると言われていたけど、それはどういうことなのだろう？

D: 里山の林や植林された人工林の手入れが行き届かなくなって、木が枯れたり、倒木が放置されたりしているからね。

C: 里山も人の手が作り上げた「二次的自然」だし、人の手が入らなくなることによって、元々の自然の姿である天然林に近づいていっている。森林面積も回復傾向にあるみたいだよ。

D: でも、人の手が作り上げた環境が失われると、これまでそこで暮らしてきた生き物もいなくなってしまって、生物多様性が維持できなくなるから、一概にいいとは言えないと思うよ。

C: 里山も歴史的に姿が移り変わってきているので、人の手が作り上げた環境が維持されていたのは、そんなに長い期間の話ではないのかもしれないよ。

D: それなら、今天然林と呼ばれている森についても、考えてみる必要があるよ。天然林に見える神社の社叢林も江戸時代から昭和までアカマツ林だったところもあるから。